

館報

June. 2005

No. 56

The Yokohama National University Library Bulletin

目次

電子ブックと図書館の未来 (有澤 博)	1
2004年12月1日～OPACが新しくなりました、 2005年2月21日～オンライン・リクエストサービスを開始しました (小池 正利)	3
本学教員寄贈図書一覧	5
平成16年度購入主要コレクション等	6
図書館に関する会議・主要日誌・職員の動向	6
図書館からのお知らせ	7

電子ブックと図書館の未来

有澤 博

私は平成15、16年度の2年間、横浜国立大学総合情報処理センター長を勤めさせていただき、この3月に任期を終えて次の方と交代することになった。この間、図書館とは同じ「情報」を維持管理する立場から、公式非公式にいろいろな交流をさせていただいた。関係された方々には厚く御礼を申し上げたい。

さて今やどの大学にも、図書館と同じように情報処理センターかそれに類するセンターが必ず設置されるようになっているが、図書館と違って情報処理センターの役割は流動的で、いまだ確立していない部分があるのが特徴的である。かつての情報処理センターには、主に理工系の研究者の大規模計算のために超強力な計算処理能力が求められ、続く時代には100台以上の均質な端末を備えた教育端末室の提供が期待された。しかし時代は移り現在の情報処理センターは、教育環境の提供もさることながら、高速で安全なネットワーク機能、すなわち情報の伝送・流通機能への必要性が強調されている。さらに今後、伝送や流通の枠組み(ハード)から、伝え方や使い勝手の面(ソフト)への要望が高まっていくと予想されている。

ところでその情報の伝送・流通において、近年大きな変化が生まれている。それは電子媒体と表示手段が、数千年におよぶ「紙」による文化を本格的に侵食し始めた、という点である。コンピュータが事務処理に使われるようになって、最初に各種の帳票が、次いで普

通の文書が手書きからプリンタ印字に移行した。次いで「ペーパーレス」という概念が普及し、文書を作ることを読むこともディスプレイの上で行ってしまうことがもてはやされた。しかし、当然のことだが「本」の持つ手触りや利便性には及ぶはずもなく、処理の効率を重視する事務処理の、それも一部の分野でのみペーパーレスは実践されてきた。

ところがここ数年でこの流れがさらに発展して、いわゆるデジタルブックが「本」の文化の一部を置き換えるようになってきた。たとえばカードブックと呼ばれるものでは、1枚の小型メモカード(マルチメディアカード)に文学作品などの書籍データと、作品・作



者名などの付加情報を収録しておき、携帯電話、パソコン、家庭のテレビ、PDA（個人用情報端末）で読めるようになってきている。端末の性能として、まだまだ十分な使い勝手とは言えないが、ページめくりはもちろん、気がついた部分にメモを書いたり、付箋を貼ったり出来、さらにキーワードを検索したり、リンクからWebページを参照したりという、インターネット接続機器ならではの長もある。今のところ媒体として売られていたり契約してダウンロードできる作品数は多くないが、技術が普及すれば、現在絶版になっているものが再販される可能性も十分にある。

さて、情報メディア技術の上に成り立つ、こうした新しい「本」文化にどうつきあっていくべきか。個人として、あるいは図書館として。これについては、先に山下館長がこの館報（No. 55）にお書きになっているように、『広辞苑』はまだモノクロであるが、辞書のカラー挿絵は当たり前になった。新聞も同様である。カラーなら何でも良いわけではないけれど、毎日どこかのページにカラーの写真や図がある。紙は薄く、軽い。・・・（中略）・・・新聞、辞書は伝統的な媒体であるが、知識、思想、アイデア、画像、等の情報を収録し、伝達し、加工・整理する手段と方法は、この20年ほどのあいだに著しく多様化し、機能もまた進歩した。この進歩は止まることなく依然進行中である。・・・（中略）・・・学術情報を伝達し保存する手段として、書籍（印刷物）のほかに電子的メディアと情報通信網が加わった。・・・（以下略）」という見方が代表的なものだろう。すなわち「本（出版）」の文化に電子化、マルチメディア化が加わったという認識がある。

当然のことながら、数千年に渡って培われた「本」の文化に他の手段がそう簡単に追いつくわけがない。本は内容だけでなく、編集、あるいは装丁、製本まで含めた総合的な作品である。本を手にとったとき、その大きさ、重さ、紙質、ページのめくりよさを感じて、本の世界に入り込む。実際、自分自身の記憶をたどって見ても、本を毎日持ち歩いて読みふけたのは、受験生のときで、中央公論社が発行した「世界の歴史」シリーズ15巻と「日本の歴史」シリーズ26巻の全巻を読み通した頃だとおもう。歴史のある区切りを、その時代の専門家が淡々と記述するのがこの種の本の役目だと思うが、実際には一巻ごとに著者の歴史観が微妙に異なることが良く分かり、大変に面白かった。布の装丁で、活字の大きさも本自体の大きさも、本当に読書に適していた。（後にこのシリーズはもっと簡単な装丁で復刊されたが、私は好きになれなかった。）こうした本のもつ全体的なメッセージ性に触れるにつけ、私は「本」の文化が他のものに置き換わることなど想像もしないで成長してきた。

こういった見方からすると、現在の電子メディアは今のところ、あくまで特殊な分野での情報収集の補助手段に過ぎないとも思える。しかし最新の技術では、電子ペーパー書籍と言って、全体が本の形をしていて1頁1頁が薄いフィルム状になっており、そこに任意のコンテンツをダウンロードして時限的に自分専用の「本」を作る、終われば別のコンテンツをダウンロードして別の本に転身が可能、というような方向に向かっているとされる。紙の質感など、まだまだ解決すべき課題は山のようにあるだろうけれど、技術の進歩というものは市場性が見えたとき、誰もが予測もしなかった速度で進み、誰もが想像できなかった完成度の製品ができ、かつ魅力的な価格で市場に投入される、というのがわれわれが経験してきたところである。ひょっとしてあと数年というレンジで、「本」そのものの概念が置き換わるほど、電子ペーパー書籍の技術革新とシェアの拡大が起きるかもしれない。そこまで行かなくても、数年以内に携帯電話やPDAなど、電子的な情報の持ち歩きと、場面と要求に合わせたリアルタイムな情報のダウンロードの文化がほとんどすべての世代に定着することは、たぶん間違いない。

もうひとつ、電子的な文化の特徴として、いわゆるマルチメディア情報を、その上につけられたリンク情報などを拠り所として任意の場所へジャンプしたり、必要な情報のみを選別して読んで行くという、いわゆるナビゲーションがある。Webページによるサービスはその初期のかたちということも出来る。情報の再構築や「つまみ食い」ができるという点で、情報発信の手段として新しい。今の所はもちろん芸術作品といえるようなものはほとんど見かけないが、やがては表現文化の新しいジャンルを形成していくことも十分にありえる。

膨大なマルチメディア情報がネットワーク上に氾濫し、既成の全ての情報がその枠組みの中に飲み込まれてしまうとき、そして心地よい検索とダウンロードと表示の環境が普及したとき、「本」の文化はどうなるのだろうか。そして図書館、特に大学の図書館はどんな役割を果たすのだろうか。私は、従来の「本」も含むけれども、それ以外の全ての形態の情報も提供できる、つまり大学における「知」の基盤を支えるセンターになってもらえないだろうかと考えはじめている。限られた職員と専任の教員のいない組織で、新しい取り組みを始めることは大変なことだが、総合情報処理センターとも相互協力して、技術の先端に位置する新しい情報システム、情報提供への取り組みを積極的に進めていきたいと思っている。

（ありさわ ひろし 環境情報研究院教授）

2004年12月1日～

OPACが新しくなりました！

2005年2月21日～

オンライン・リクエストサービスを開始しました！

附属図書館では、平成16年12月1日、業務用コンピュータシステムを更新し、これにともないOPACのデザインや構成についても、新しいものに変更しました。また、平成17年2月21日からは、新業務システムを使用して「オンライン・リクエストサービス」を開始しました。このサービスは今なお発展途上にあるのですが、今回は平成17年4月末時点における主な変更点や利用可能なサービスについて、概略をご紹介します。

1. OPACと貸出中圖書の予約

OPAC (Online Public Access Catalog) とは、本学が所蔵している図書や雑誌のオンライン目録です。資料検索の流れは従来と変わりありませんが、新たに次のような機能・サービスが加わりました。

- 1) 雑誌タイトル一覧
- 2) 新着図書検索
- 3) オンラインヘルプ (操作方法の説明)
- 4) 検索結果のテキストファイルへのダウンロード
- 5) 貸出中圖書の予約



(貸出中圖書の予約とは？)

読みたい本が貸出中だったときに、その本が返却されたら優先的に自分が利用する旨を予約しておくサービスのことです。これまでは中央図書館に来ていただかないと予約の申込みができなかったのですが、「オンライン・リクエストサービス」の開始により、OPACの検索結果 (図書詳細・所蔵情報) が「貸出中」のときは、そのまま画面上で申し込めるようになりました。

(利用手続き)

本学の「図書利用カード」を持っている方であればどなたでも利用できます。また、利用にあたって特別な手続きは必要ありません。


(予約方法)


こちらをご覧ください。


(予約後の流れ)


予約していた本が返却されると、係員がその本をカウンターに取り置いた上で電話または電子メールでお知らせしますので、中央図書館にお越しください。

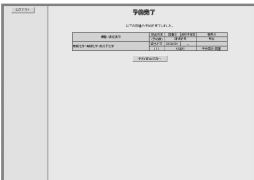
The image shows a vertical flowchart illustrating the reservation process on the YNU Library website. It consists of five screenshots of the web interface, each with a corresponding text box on the right explaining the step.

- 貸出中圖書 予約方法**
- 

◎OPAC で資料を検索します。
- 

図書詳細・所蔵情報
読みたい本が貸出中のとき、**予約**をクリックします。
- 

ユーザ認証画面
カード番号とパスワードを入力します。
- 

貸出・予約状況確認
申込内容に誤りがないければ、**予約**をクリックします。
- 

◎予約が完了しました。

2. オンライン・リクエストサービス

オンライン・リクエストサービスとは、これまで中央図書館や理工学系研究図書館のカウンターで行っていた手続き等をホームページ上から行えるようにしたもので、現在受けられるサービスは次のとおりです。

- 1) 貸出中圖書の予約、予約取消
- 2) 貸出・予約状況確認
- 3) ILL文献複写・図書貸借申込



(ILL文献複写・図書貸借申込みとは？)

本学で所蔵していない図書や雑誌について、その資料を所蔵している図書館から複写物を取り寄せたり現物を借用したりする図書館相互の協力制度（ILL）を利用した文献入手の申込みを、ホームページ上から行えるようにしたものです。このサービスは、これまでも学内経費をお持ちの先生方にはご利用いただいておりましたが、「オンライン・リクエストサービス」の開始に合わせてサービス対象が大きく広がりました。

(利用手続き)

現在利用できるのは、本学に所属する教職員、大学院生、及び二部・夜間主コースの学生です。また、あらかじめ利用申請が必要になりますので、所定の申込書に必要事項をご記入の上、中央図書館又は理工学系研究図書館のカウンターまでお持ちください。

(申込方法)

こちらをご覧ください。

(申込後の流れ)

申し込まれた文献が図書館に到着してからの流れは、次のとおりです。

①学内経費による文献複写

学内便にて複写物をお送りします。

②私費による文献複写

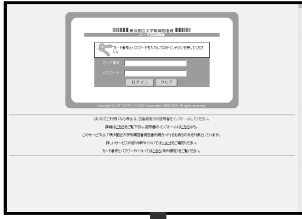
複写物が到着した旨を電話または電子メールでお知らせしますので、中央図書館レファレンス・デスクで受け取ってください。

③図書貸借

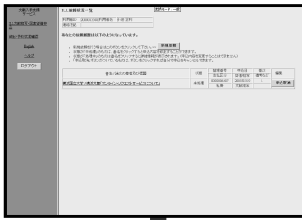
図書が到着した旨を電話または電子メールでお知らせしますので、中央図書館レファレンス・デスクで受け取ってください。

オンライン・リクエストサービスは、今後さらに内容を充実させていきますので、どうぞご期待ください。
(こいけ まさとし 附属図書館情報サービス課参考調査係長)

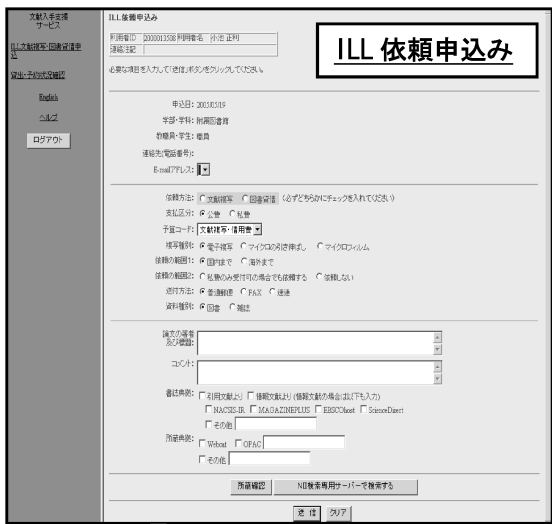
ILL 文献複写・図書貸借 申込方法




↓



↓



↓



ユーザ認証画面
カード番号とパスワードを入力します。

ILL 依頼状況一覧
これまでの申込内容が表示されます。さらに申し込むときは、**新規依頼**をクリックします。

ILL 依頼申込み

◎申込みが完了しました。

本学教員寄贈図書一覧

平成16年1月から平成17年3月までに本学教員の方々から寄贈していただきました著書・編書を紹介します。ご恵贈ありがとうございました。

池田 尚治（工学研究院）

『コンクリート構造、複合構造の研究』

池田尚治著（横浜国立大学工学部建設学科第5研究室（複合構造研究室），1997）

岩切 正介（教育人間科学部）

『英国の庭園：その歴史と様式を訪ねて』

岩切正介著（法政大学出版局，2004）

大門 正克（国際社会科学部）

『近代社会を生きる』

大門正克ほか著（吉川弘文館，2003）

『戦後経験を生きる』

大門正克ほか著（吉川弘文館，2003）

大原 一興（工学研究院）

『在宅介護（コミュニティケア）を考えるハウスアダプテーション用語集』

大原一興ほか著（中央法規出版，2000）

『痴呆性高齢者の住まいのかたち：南スウェーデンのグループリビング』

大原一興ほか著（ワールドプランニング，2000）

『The physical environment of group living for people with dementia：12 case studies in Southern Sweden』

大原一興ほか著（World Planning，2000）

『古民家の保存・活用のための方法論的研究：古民家の地域内保全と民家展示施設の考察』

大原一興ほか著（住宅総合研究財団，2001）

『知的障害のある人のためのバリアフリーデザイン』

大原一興ほか著（彰国社，2003）

大野 啓一（環境情報研究院）

『沖積地植生の研究：奥田重俊先生退官記念論文集』

奥田重俊，大野啓一ほか執筆（奥田重俊先生退官記念会，2001）

金子佳代子（教育人間科学部）

『家政学概論』

金子佳代子ほか執筆（メヂカルフレンド社，1997）

『栄養・調理』

金子佳代子ほか執筆（メヂカルフレンド社，1997）

『環境教育重要用語300の基礎知識』

金子佳代子ほか執筆（明治図書出版，2000）

『環境・スポーツ栄養学』

金子佳代子ほか執筆（建帛社，2003）

『基礎栄養学』

金子佳代子ほか執筆（同文書院，2003）

清田 耕造（国際社会科学部）

『経済成長と国際収支』

清田耕造著（日本評論社，2003）

『近現代アジア比較数量経済分析』

清田耕造執筆（法政大学出版局，2004）

河野 隆二（工学研究院）

『Wireless communications in the 21st century』

河野隆二ほか執筆（IEEE Press，2002）

『Ultra wideband signals and systems in communication engineering』

河野隆二ほか著（J. Wiley，2004）

佐藤 寿邦（工学研究院）

『データのとり方とまとめ方：分析化学のための統計学とケモメトリックス』

James N. Miller, Jane C. Miller著；宗森信，佐藤寿邦訳（共立出版，2004）

白井 宏明（国際社会科学部）

『ビジネスモデル創造手法：夢を現実に変える4ステップ・アプローチ』

白井宏明著（日科技連出版社，2001）

白井美由里（国際社会科学部）

『カレンシーボードの経済学：香港にみるドル連動制の再考』

白井美由里著（日本評論社，2000）

『入門現代の国際金融：検証経済危機と為替制度』

白井美由里著（東洋経済新報社，2002）

『価格・プロモーション戦略』

白井美由里ほか著（有斐閣，2004）

須川 英徳（教育人間科学部）

『韓国経済通史』

須川英徳ほか監訳（法政大学出版局，2004）

杉村 秀幸（教育人間科学部）

『スペッドテラ：プロフェッショナル英和辞典；物質・工学編』

杉村秀幸執筆（小学館，2004）

鈴木 敏子（教育人間科学部）

『家族援助を問い直す』

鈴木敏子ほか著（同文書院，2004）

益永 茂樹（環境情報研究院）

『演習環境リスクを計算する』

中西準子，益永茂樹ほか編著（岩波書店，2003）

村田 忠禧（教育人間科学部）

『尖閣列島・釣魚島問題をどう見るか：試される二十一世紀に生きるわれわれの英知』

村田忠禧著（日本僑報社，2004）

『現代中国治国論：蒋介石から胡錦濤まで』

村田忠禧編（勉誠出版，2004）

※敬称略。所属部局は、原則として最新のものです。

平成16年度購入主要コレクション等

Philosophy and the Liberal Arts in the Early Modern Period. Instalment 1-2. Number of Titles : 224. (807 Microfiches)

16-17世紀ヨーロッパの学校、大学で学ばれた「哲学と自由学芸」(リベラルアーツ)に含まれる哲学を筆頭とする学芸全般の歴史資料。

[中央図書館1階マイクロ資料室]

International Tax and Public Finance. Vol. 1-8 (1994-2001).

国際税制、財政に関する研究資料を集成したもの。

[社会科学系研究図書館雑誌フロア]

Japanese Propaganda : Selected Readings Ser. 1. Vol. 1-10 (1872-1943).

日本で発信され、英国圏で広く読まれた貴重な書籍の複製版。

[中央図書館1階保存書庫]

Dispute Settlement Reports. 1996 v. 1,1997 v. 1-3,1998 v. 1-9,1999 v. 1-2.

世界貿易機構(WTO)の紛争解決手続に付託された条件に関する報告集(公式判例集)。

[中央図書館1階保存書庫]

図書館に関する会議

(平成16年11月1日～平成17年4月30日)

運営委員会

平成16年度第4回(平成16年11月29日)

<審議事項>

- 1) 平成18年度概算要求について
- 2) 平成17年度学長裁量経費の要求について
- 3) 平成17年度教育研究高度化経費の要求について
- 4) 平成17年度特別経費に要求について

平成16年度第5回(平成17年1月28日)

<審議事項>

- 1) 平成18年度概算要求について
- 2) 平成17年度学長裁量経費の要求について
- 3) 平成17年度教育研究高度化経費の要求について
- 4) 横浜国立大学附属図書館利用規則の一部改正について
- 5) 平成17年度附属図書館開館日程について
- 6) 横浜国立大学附属図書館文献複写規則の一部改正について

平成16年度第6回(平成17年3月9日)

<審議事項>

- 1) 国立大学法人横浜国立大学附属図書館特別室使用要領の一部改正について
- 2) 平成17年度留学生特別経費の要求について

図書館資料選定小委員会

平成16年度第3回(平成17年3月9日)

<審議事項>

- 1) 寄贈図書の選定について

情報基盤整備小委員会

平成16年度第2回(平成16年12月22日)

<審議事項>

- 1) 今後の電子情報資料の導入のあり方について

主要日誌

(平成16年11月1日～平成17年4月30日)

- 11.11 神奈川県立図書館開館50周年記念式典(もみじ坂会館)
- 11.12 関東地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(千葉大学)
- 11.25 神奈川県図書館協会研修委員会(パシフィコ横浜)
- 12.3 神奈川県図書館協会大学図書館委員会(横浜市立大学)
- 12.17 横浜市内大学図書館コンソーシアム委員会(神奈川大学)
- 2.14 神奈川県内大学図書館相互協力協議会(横浜国立大学)
- 3.1 神奈川県図書館協会研修委員会(神奈川県立図書館)
- 3.16 神奈川県図書館協会理事会(神奈川県立図書館)
- 3.17 横浜市内大学図書館コンソーシアム委員会(神奈川大学)
- 4.21 関東地区国立大学図書館協会総会(茨城大学)
- 4.28 神奈川県図書館協会理事会及び総会(神奈川県立図書館)

職員の動向

(平成16年11月1日～平成17年4月30日)

転入

(4月1日付)

情報管理課総務係

(新採用)

河原田明枝

情報サービス課資料サービス係

(新採用)

直江千寿子

(新採用)

横井麻衣子

館内異動

(4月1日付)

情報管理課図書管理係

(情報サービス課参考調査係)

立石亜紀子

情報管理課雑誌管理係

(情報サービス課資料サービス係)

平田 義郎

(情報管理課図書管理係)

池上るみ子

情報管理課システム管理係

(情報管理課雑誌管理係)

相沢 雅帆

情報サービス課参考調査係

(情報管理課雑誌管理係)

森岡 緑

転 出

(4月1日付)

東京大学法学部図書整理係

(情報管理課図書管理係)

後藤 俊彦

一橋大学学術・図書部学術情報課図書情報係

(情報管理課システム管理係)

高田 博志

退 職

(2月28日付)

(情報管理課総務係)

福原 歩

(3月31日付)

(情報サービス課資料サービス係)

加瀬 ゆか

(情報サービス課資料サービス係)

刀根 愛

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 図書館からのお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

自動貸出装置を導入しました

中央図書館2階の貸出カウンター横に、自動貸出装置が2台設置されました。表紙に図書館のバーコードが貼ってある図書なら、自分で貸出手続きをすることができます。

自動貸出装置のディスプレイがタッチパネルになっていますので、説明を見ながら簡単に操作できます。

①装置の前に立つとディスプレイに「貸出」ボタンが表示されますので、それに触れます。

②「利用カードを置いてください」の画面に移ります。学生の方は、学生証の裏面が図書利用カードになっていますので、そのバーコードを上に向けて装置に置いてください。

③次に図書利用カードは置いたままにして、借りたい図書を一冊ずつ装置にのせます。図書の表紙に貼ってあるバーコードを上、背表紙を奥に向けて、装置の角に合わせて置いてください。

④「手続きが完了しました。本を御取り下さい。」と表示されましたら、図書を取り出します。この時に図書を取るのが早すぎると、手続きが途中までしかできないため、出口のゲートでブザーが鳴ってしまうことがありますのでご注意ください。

⑤最後にレシートが出てきます。返却期日を書いてありますのでお持ち帰りください。カウンターで貸出

するときは返却期日の日付印を一冊ずつ押していただいておりますが、その手間が省けます。

表紙にバーコードを貼っていない図書は、自動貸出装置が使えません。また、厚みのある図書はうまくいかないことがありますので、従来どおりカウンターで手続きしてください。

貸出カウンターが混雑しているときなどに、手早く手続きができるようになります。ぜひご利用ください。

土曜日、日曜日及び国民の祝日の開館時間が変わりました

平成17年4月より、土曜日、日曜日及び国民の祝日の開館時間が、下記のとおり変更になりました。

中央図書館	9時30分～16時30分
理工学系研究図書館	13時30分～16時30分
※授業のない期間は開館しません。	

文献複写料金について

カラーコピーの開始にともない、下記のとおり文献複写料金を決めました。

電子複写（ゼロックスコピー）によるもの			
モノクロ	：学内者	1枚20円	／ 学外者 1枚35円
カラー	：学内者	1枚60円	／ 学外者 1枚80円
リーダープリンターによるもの			
	学内者	1枚20円	／ 学外者 1枚35円

神奈川県立川崎図書館の巡回連絡車により図書が無料で借りられます

横浜国立大学附属図書館と神奈川県立川崎図書館は、地域貢献・社会連携の一環として、この平成17年3月末に覚書を交わし、両館が所蔵する科学技術・産業分野の図書（雑誌は除く）を利用者の求めに応じて相互に貸し借りするサービスを開始しました。



県立川崎図書館の巡回連絡車が火、水、木曜日（両館の休館日を除く）のいずれかに、必要に応じて附属図書館に立ち寄り、図書を受け渡しを行います。

他の機関との相互貸借は、往復の送料を利用者に負担していただいていたましたが、このサービスにあっては無料ですので、ご活用ください。

県立川崎図書館の蔵書を検索するときは、下記のURLにアクセスしてください。

神奈川県立図書館

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/opac>

*なお、ご利用になれる図書は、県立図書館のOPACで検索したときに「所蔵館」が「県川」、「取扱」が「空欄」、「状態」が「○」になっているもので、1人5冊までです。

*申込方法につきましては、図書館ホームページをご覧いただくか、中央図書館レファレンス・デスク又は理工学系研究図書館カウンターにお尋ねください。

新入生オリエンテーションを実施しました

学部及び大学院の新入生を対象にオリエンテーションを実施して、図書館の施設・資料・サービス概要を紹介しました。平成17年度に実施した内容は次のとおりです。

- 各学部、研究科及び学府が実施する新入生オリエンテーションでの図書館利用案内 4/5(火)～4/8(金)
- ライブラリーツアー 4/11(月)～4/15(金)
- OPACガイダンス 4/18(月)～4/22(金)

また、引き続き、先生方のご希望の日時で、クラス単位でのオリエンテーション（図書館資料・サービスの概要紹介と中央図書館の見学ツアー）を実施しますので、ご利用ください。

定期講習会のお知らせ

右記の日程で、平成17年度前期の定期講習会を実施します。後期日程は9月発表の予定です。

定期講習会 前期日程

【一般公開プログラム】

●大学図書館入門

図書館資料・サービスの概要紹介と中央図書館の見学ツアー。

*5/16(月)～7/22(金)

(時間) 11時～11時40分

(場所) 中央図書館1階メディアオフィス

【学内限定プログラム】

●レポート・卒論作成のための図書館利用案内

レポート・卒論作成という観点からの図書館の利用法解説。(学部 3・4年生向け)

*5/17(火)～5/20(金), 7/5(火)～7/8(金)

●日本語論文検索入門

日本語論文や新聞記事の検索に使えるデータベースの概要紹介。(学部 3・4年生、院生向け)

*6/7(火)～6/10(金)

●日本語論文検索実習

データベースを用いた日本語論文や新聞記事の検索実習。(学部 3・4年生、院生向け)

*6/14(火)～6/17(金)

●外国語論文検索入門

外国語論文や新聞記事の検索に使えるデータベースの概要紹介。(学部 3・4年生、院生向け)

*6/21(火)～6/24(金)

●外国語論文検索実習

データベースを用いた外国語論文や新聞記事の検索実習。(学部 3・4年生、院生向け)

*6/28(火)～7/1(金)

●調べもの総合実習

参考図書を用いた調べもの(新聞記事の入手を含む)の総合実習。(学部 1～4年生向け)

*7/12(火)～7/15(金)

●文献入手総合実習

図書館資料・サービスを利用した文献探索から入手までの総合実習。(学部 1～4年生向け)

*7/19(火)～7/22(金)

(時間) 14時40分～16時

(場所) 中央図書館1階メディアオフィス

詳細につきましては、中央図書館レファレンス・デスクにお尋ねください。